



11 月は、河内中学校の読書月間です！

この 1 か月間の取組をご紹介します。



昇降口の掲示板に「先生方からのおすすめの本」が貼り出されます。（写真は去年の様子）



図書館内の机の上に委員さんおすすめの本のコーナーがあります。委員さんが学級でブックトークしますので、ぜひ借りてみましょう。



「図書館のお夜食」から、菊地先生が給食の献立を作りました。とても素敵なメニューができました。（ポプラ社刊 原田ひ香著）

～ビブリアバトル選手権大会のお知らせ～

11 月 6・7・8 日の三日間、朝読の時間に「ビブリアバトル選手権大会」が放送で行われます。ビブリアバトルは「話す」「聞く」の感覚を養うために立命館大学の谷口忠大先生が考案された「読書ゲーム」です。中学生の皆さんが、本の感想を話すこと、友だちが発表する本の感想を聞くことにより、豊かな情緒を育むことにつながります。

今回、発表する **1 名の図書委員**さんは、5 月から準備を始め、この日を迎えました。いずれ劣らぬ「**読書の達人**」です。静かに発表を聞き、自分自身が「一番読みたい！」と思った本に投票してください。校内チャンピオンは 11 月 13 日のお昼の校内放送で発表します。お楽しみに！！

— 本を読む意義は三つある —

同じ読書でも、読む本によって意義は全くちがってくる。これには、大きく三とおりがあある。第一は、情報を得るための読書。たとえば、仕事や試験の必要に迫られて読む場合もあるだろう。第二は、一人の時間を楽しく有意義に過ごすための、頭の中でイメージーションを膨らませる読書。そして第三は、自分を鍛え、精神を豊かにするための読書である。

こんな本を読んでみよう！

「まなの本棚」

芦田 愛菜 著

小学館 刊



俳優として活躍する著者が中学生時代の読書について書いたのが本書です。愛菜さんは、小学生の頃から本が大好き、中学生になってからは村上春樹のファンになったそう。大学生になった今はどんな本を読んでいるのでしょうか。山中伸弥先生との対談も入って、読み応えのある一茶となりました。この秋の必読の一冊です。

分類： 01 ア

「〈自分〉を知りたい君たちへ 読書の壁」

養老 孟司 著

毎日新聞出版 刊



元解剖学者で無類の昆虫好きでもある著者が、毎日新聞の書評欄（本の感想が載っているコーナー）に書いた本についての感想を、一冊にまとめたのが本書です。大きな特徴は、一貫性がないこと。そう言うように、けなしているように聞こえますが、興味の範囲が普通の人よりもはるかに広いことは間違いありません。中学生の皆さんがこの本を読むなら、興味のあるジャンルの本について、ページを繰ってみると良いでしょう。

分類： 01 ヨ

「東大読書」

西岡 竜誠 著

東洋経済新報社 刊



01 ニ

この本の副書名（説明のために付けられるもう一つの名前）は、「読む力と地頭力がいっしょに身につく」とあります。本当にそんなことができるのなら、読んでみる価値はありますね。執筆当時、現役の東大生だった著者が「読書法」（読書のやり方）をかみ砕いて説明した本です。項目を際立たせて、詳しく解説していく構成が読みやすく、中学生の皆さんでも読み進めることができます。

「10代のための読書地図」

本の雑誌編集部 編

本の雑誌社 刊



分類： 01 ホ

自分の好きな本を選ぶのは、意外と難しい！と感じている方へ紹介する一冊です。書名にも「読書地図」とあるように、何を讀んだらいいのか、と迷っている方にとっては、まさに救世主のような本です。図書館カウンターへ置いておきますので、目を通してください。そして気に入った本が見つかったら、その本をぜひ借りてみましょう。場所がわからないときは司書へ声をかけてください！

「高校生からの読書大全」

斎藤 孝 著

東京堂出版 刊



分類： 01 サ

15のジャンルに分けられて、10代の皆さんに読んでほしい本が紹介されています。この紹介文を読んだだけでも、内容を知ることができますが、気に入った本が見つかったら一冊丸ごと読んでみましょう。いずれ劣らぬ国内外の名著ばかりが揃いました。司馬遷（中国の歴史家）から村上春樹まで、その幅の広さが著者のこの本への思いの深さを示しています。

＊カラー版がクロームのクラスルーム「図書館だより」で見られます。0Wjf27p（オーダブリュージェイエフ 27 ピー）です。

＊「図書館だより」のクラスルームから、学校図書館の本の予約ができるようになりました。ぜひ利用してみましょう！